

# 小木の子 われら

校 区 内  
全 戸 回 覧

令和5年12月1日発行

## 本を手にとろう

校長 高橋 高志

読書の秋、小木小学校では11月13日～26日までを校内読書旬間とし、児童が読書に親しむ活動を重点的に行いました。期間中は、「ボランティアの方や職員による読み聞かせ」「本 DE クイズラリー」「おすすめの本の紹介」「家族読書」といった様々な取組を行いました。その中でも、「本 DE クイズラリー」の取組は、体育館入り口や音楽室前廊下など校舎内の至る所に先生方や図書委員会の子どもたちが考えたクイズや関連する本が設置され、「本を手に取りたいな」と思えるような環境作りがなされていました。子どもたちの「もう全部回って賞品のしおりやぬりえをもらったよ」と喜んでいる姿がたくさん見られました。ここで、そのクイズを少しだけ紹介します。（答えは、お子さんに聞いてみてください。）

①「ごっくん！ちょっとすっぱかったけどおいしかった。」といったとき、ぼくが食べたのはなんでしょう。（『ぼくなにをたべてたかわかる？』（みやにしたつや・すずき出版）より）＜1～3年生問題＞

②エジプトのツタンカーメンのはかから〇〇〇〇が見つかりました。それは何でしょうか。

（『フルートとトランペットの演奏』（池辺晋一郎・文研出版）より）＜4～6年生問題＞

ベネッセ総合教育研究所の調査によると、最近の子どもの読書習慣の実態は、小学生から高校生の子どもたちの実に49%が平日1日の読書時間が0分（1～3年30.2%、4～6年45.5%）となっています。本を全く読まない子どもが多いことに驚いています。

本に親しみ、読書の習慣をつけることはとても大切です。読書を通して、子どもたちは、想像力や言語能力、学校では学べない知識等、人生を豊かにする様々なものを得ることができます。時には、人生の支えになるような本に出会うこともあります。

しかし、子どもに一方的に「本を読みなさい」と言っても、なかなかうまくいかないものです。子どもたちの周りには、他にもテレビやゲーム、外遊び等、興味・関心を惹かれることがたくさんあるからです。

子どもの読書習慣の形成に一番効果的なのは、**家庭で親も本を読み、雰囲気作りをすること**です。今回「家族読書」の取組をお願いした意図もそこにあります。

私も、ちょっと時間ができるとついスマホ（インターネット）に手が伸びてしまいます。そのうちほんの一部だけでも読書に回すことができればいいのに…と反省することが時々あります。外遊びができにくいこれからの季節、まずは週に一度だけでも、**親子でデジタルデバイス（スマホやゲーム機）の代わりに、本を手にとるところから始めてみては**

かがでしょう。